

このたび益子陶芸美術館では、陶芸家・濱田庄司(1894-1978)の没後40年を記念する展覧会を開催します。栃木県益子町を拠点に大正から昭和にかけて活躍した濱田は、生活に根ざした重厚で力強い作品を数多く生み出しました。柳宗悦らと民藝運動を推進し、日本の工芸界に大きな影響を与えるとともに、1955年に第1回重要無形文化財保持者(人間国宝)に指定、1968年には文化勲章を受章するなど、長年にわたる精神性の高い作陶活動が高く評価されました。

濱田庄司展

益子陶芸美術館
開館25周年記念
—山本爲三郎
コレクションより

没後40年
本展では、アサヒビール大山崎山荘美術館(京都府大山崎町)の所蔵品の軸とされる「山本爲三郎コレクション」を中心に、同館所蔵の初期から晩年までの濱田庄司作品を約100点展覧します。民藝運動の支援者としても知られるアサヒビール初代社長・山本爲三郎(1893-1966)と濱田庄司は20代はじめの頃に出会い、それから半世紀以上も親交を深め続けました。濱田の京都市陶磁器試験場時代の希少な作例から、イギリスや沖縄での作陶経験の影響がみられるもの、また山本家の暮らしを彩ったうつわまで、貴重な作品群を当館で初めて大規模にご紹介します。

山本爲三郎 Tamesaburo Yamamoto 1893-1966
実業家。旧制中学校在学中に家業の山爲硝子を継承する。大日本麦酒取締役等を経て、朝日麦酒株式会社(現アサヒビール株式会社)初代社長に就任。大阪ロイヤルホテル(現リーガロイヤルホテル大阪)設立などホテル事業にも従事した。芸術文化活動への支援を惜まず、特に民藝運動は柳宗悦や濱田庄司らの同世代として生涯にわたり支援し続けた。



1. (左から) 棟方志功、山本爲三郎、濱田庄司、柳宗理 1964年
2. 《緑鉄軸掛分流揃大鉢》1960-70年代
3. 《黒軸三方把手大ジョッキ》1960年頃
4. 《鉄軸前荷文注籠》1930年頃
5. 《鉄軸委文瓶》1940年頃
6. 《赤絵蓋付茶味入》1935年頃
7. 《鉄白軸打掛食籠》1946年頃
8. 《琉球色絵笹文土瓶》1919年頃
9. 《琉球鉄絵染付委文水指》1940年頃
すべて濱田庄司作 アサヒビール大山崎山荘美術館蔵
写真提供: アサヒビール大山崎山荘美術館
写真撮影: 四方邦彦 (2, 6, 7, 8, 9)
10. 濱田庄司 アメリカ カリフォルニア州立 サンノゼ大学 1963年
写真提供: 株式会社濱田濱



交通: [バス] 東武宇都宮駅、JR宇都宮駅西口14番バス乗り場から東野バス益子行、または秋葉原駅より茨城交通高速バス「関東やきものライナー」笠間・益子行、陶芸メッセ入口下車徒歩2分。
[JR] 小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道益子駅下車徒歩25分。[自動車] 常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道桜川筑西ICから20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道真岡ICから25分。

益子陶芸美術館 陶芸メッセ・益子
〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021
TEL.0285-72-7555 FAX.0285-72-7600
ホームページ <http://www.mashiko-museum.jp>

関連プログラム

講演会「いまなぜ民藝かー濱田庄司の場合」

日時 6月2日(土) 13時30分-15時30分(受付13時開始)
会場 益子国際工芸交流館(陶芸メッセ・益子内)
講師 鞍田 崇(哲学者・明治大学理工学部准教授)
定員 40名
*聴講無料
*参加ご希望の方は、お電話にてお申込みください。電話 0285-72-7555(先着順)

濱田庄司 Shoji Hamada 1894-1978

陶芸家。益子を拠点に、柳宗悦らと民藝運動を推進しながら、地元の素材を重んじた独自の美意識と古今東西のエッセンスを加えた作品を数多く手がけた。山本爲三郎とは東京高等工業学校(現東京工業大学)在学中、ガラス工場見学で大坂の山爲硝子に赴いた際に知り合う。後に実業家・倉橋藤治郎を介して再会し、以来半世紀にわたり親交が続いた。

|次回展予定| 長倉翠子展(仮称) 7月22日(日)-9月30日(日) *内容は変更になる場合がございます。